

(10) 受付・接客

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1) 接客マニュアルによる基本対応と臨機応変な対応 2) 実務研修と資格取得の奨励 3) 適切な混雑時対策 4) 迷子への対応 5) 苦情や不当要求に対する対応 6) お客様の声委員会による迅速な対応	○		1) 従業員ガイドブックや接客マニュアルにより、スタッフ全員が挨拶・身だしなみ・接客・苦情対応・電話対応・案内誘導・近隣施設案内等の基本について共通認識を持って対応した。 お客様の要望に合わせ、臨機応変に案内誘導を行った。 2) 新規採用者を対象とした接客に関する内部研修を実施し、職員のスキルアップに努めた。 11月に「サービス接客実務検定」「サービス介助士資格」の資格取得を奨励し、サービスの質の向上に努めた。 3) 館内の混雑状況に応じ蛇行入場させる等、混雑緩和と危険防止に努めた。 立体駐車場の満車時や水族館内の混雑時には、立体駐車場の利用規制を行い、国営公園管理業務受託者と連携し、国営公園駐車場へ車両を誘導案内することで、駐車車両の分散化を行った。 GWの繁忙期のうち、5/3～5/5は水族館滞留者の分散化及び安全確保を図るため、開場時間を8時10分とした。 参加体験プログラムを充実させ、利用者を館外施設に分散化した。 4), 5) 業務実施体制図に基づき、総括責任者、業務責任者および各担当職員の配置を行い、業務を実施した。 6) Webアンケートを継続して実施し、お客様からのご意見等を1週間毎に取りまとめ、展示等の方向性に反映させる等実施した。財団内部、県、国事務所へ情報の共有を図るとともにホームページ(お客様の声)で公開し、改善等については適切に対応した。	・ヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

(11) 情報管理

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
個人情報保護						
法令や財団が定める個人情報・特定個人情報取扱規程等に基づき、業務上知り得た個人情報は適切に管理するものとする。	○		法令や財団が定める個人情報・特定個人情報取扱規程等に基づき、適切に管理を行った。	・ヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

3. 自主事業(地域還元事業・公園関連事業)

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
地域還元事業						
①地域に根ざした行事						
季節を楽しむ催事 GW・夏休み・ハロウィン・クリスマス・正月等一年を通して季節を楽しむ催事、地域団体と連携し体験コンテンツや演舞披露等の開催に協力し、地域振興に寄与することを目的として国営公園管理業務受託者と連携して実施する。	○		上半期においては、地域の保育園や学童等と連携したキッズアートの展示を行ったほか、近隣の集落に伝わる伝統芸能の披露を行った。また、北部地域の観光施設の相互送客を目的とした持込イベントに参画した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
サマーフェスティバル 海洋博公園花火大会 海と花火を楽しむ県内有数の集客イベント。公園の利用促進、沖縄観光への誘客を目的として国営公園管理業務受託者と連携して実施する。			「海洋博公園サマーフェスティバル」 ・開催日：令和5年7月15日(土) ・開催場所：国営沖縄記念公園 海洋博覧会地区 エメラルドビーチ ・開催内容：エメラルドビーチをメイン会場として、「海洋博公園花火大会」、「ビーチアトラクション」、「ステージイベント」などの催事を実施した。その結果、エメラルドビーチ及び隣接する水族館関連区域へ県内客を中心に34,270人もの集客を図り、県民の利用促進や沖縄県、特に北部地域の観光振興に寄与することができた。			
海洋博公園美ら海花まつり 県内の「花のカーニバル」と連携し、公園の利用促進、沖縄観光への寄与、地域団体による壁面花装飾等誘客促進を目的に実施される本イベントに国営公園管理業務受託者と連携して実施する。			・催事名称：第19回美ら海花まつり ・実施期間：令和6年1月20日(土)～3月31日(日)計72日間 ・実施場所：中央噴水広場周辺および熱帯ドリームセンター ・実施目的： (1) 海洋博公園施設の利用促進 (2) 公園施設利用者の満足度向上 (3) 「沖縄花のカーニバル」との連携による冬期の沖縄県観光の振興・ 実施内容： (1) 海洋博公園の各所をペゴニア・マリーゴールド、ビオラ等の79品種約30万株の草花で装飾展示した。中央階段では、海の生き物や干支(辰)の花絵や模様花壇、ハンギングバスケット等を展示し、美ら海水族館園路沿いを沖縄の海の生き物をイメージした造形物花壇やFRP造形物等を使用して草花で装飾した。 (2) 今回のテーマを「南国春花の祭典」とし、熱帯ドリームセンターでは、チューリップやカンヒザクラ、ヒマワリ、ツツジ、椿等といった花の展示を行った。 (3) 2m×5mの壁面の花装飾を本部町4団体、沖縄市1団体のボランティアに協力していただき壁面装飾を実施した。			

②公園PR関連事業						
フラワーロードの設置 水族館・海洋博公園の周辺地域の道路に造形花壇等を設置し、周辺地域的美観向上、公園利用者の満足度向上に寄与する。			・海洋博公園周辺地域的美観向上、公園利用者の満足度向上に寄与することを目的に、本部町浦崎交差点及び本部町伊豆味区喜仙川緑にジンベエ、クマノミの大型造形花壇を設置した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
移動水族館の実施 沖縄県内地域のまつりやイベント等で、依頼を受けての移動水族館(有料)を開催する。展示生物や沖縄の海に関する解説、プラゴミ問題等の環境保全に係る解説も併せて実施し普及啓発を行う。			沖縄本島内のまつり、イベント等会場において活魚車による移動水族館を開催し、沖縄の海に生息する魚類の生態展示、職員による展示生物や沖縄の海に関する解説等を行った(11件15,804名)。			
県外におけるプロモーション 県外において、北部地域の自治体、観光協会、沖縄県、OCVB等と連携してプロモーション事業を実施する。	○		・神戸三宮にて開催されたどさんこしまんちゅフェスティバルへOCVBと共同運営ブースを出展した。(期間:7月22日～23日) ・東京新宿にて開催された「第20回新宿エイサー祭り」にOCVBと共同運営ブースを出展した。(期間:7月29日～30日) ・ヴァンラーレ八戸及びOCVBと連携し、青森県内にて水族館等のPRを実施した。 ・OCVBが主催する「沖縄MICEセミナー&商談会In大阪・東京」へ出展し、MICEでの水族館活用についてPRを行った。(期間:9月6日、9月8日) ・沖縄県が主催する「沖縄リゾートウェディングフェアin横浜」に出展し、美ら海ウェディングのPRを行った。(期間:9月9日～9月10日) ・OCVBが実施する「沖縄MICEプロジェクト2023「MICE商談会・交流会」12/13(海外市場)、12/15(国内市場)」に出展し、水族館MICEの魅力発信を行った。			
やんばる旅ナビ(WEBサイト)の運営 沖縄北部観光支援ナビゲーションサイト「やんばる旅ナビ」を運営し、沖縄本島北部「やんばる」の魅力的な観光情報などを発信し、やんばる地域の観光振興に寄与する。			北部の魅力的な観光情報を発信し、やんばる地域の観光スポットを紹介した。 やんばる旅ナビPV数:1,111,612			
公園施設との連携 熱帯ドリームセンターの入館者のうち、水族館の年間パスポートの掲示またはセット券を利用した入館者については半額免除とし、免除額は水族館経費で負担することで、公園施設の利用促進に寄与する。			年間パスポート提示による利用者は4,078名、セット券による利用者は48名、合計4,126名が半額免除を利用した。			

③地域連携事業					
市民参加型調査 地域・NPO団体 等からの 情報提供を受け、地域の 生物相調査を実施し、そ の成果は各種講座の開 催やホームページ への 掲載等により共有する。	○	・ウミガメ産卵調査：地域住民からの 情報提供や定期調査により、4-9月 に産卵調査(嘉陽区19回、安部区 12回、天仁屋区3回)を実施した。 「上陸のみ」「産卵」の2項目の調査 結果をウミガメ飼育施設内で掲示 し、施設案内で活用した。 ・海洋生物ストランディング調査： 地域住民からの情報提供により、ウ ミガメや魚類のストランディング調査 を行った。 ・うるま市にある沖縄アミークスイ ンターナショナルの生徒、先生と共に 同校敷地内に生息するオキナワイ ボイモリ幼生及び成体のモニタリ ング調査を15回実施した。	・月報、ヒアリング 等により確認した。	・業務計画書のと おり適切に実 施されている。	・良好に実施できている。
環境保全活動の支援 沖縄本島及び周辺離島 におけるビーチクリー ンや赤土流出防止等の環 境保全活動参加者へ水 族館の入場券と引き換え 可能な「エコクーポン」を 提供する。		・海岸清掃などを行い、申請のあつ た17団体へ計859枚のエコクー ポンを交付した。 ・今年度は新たに「国内外来種駆 除」としてヒルギダマシ防除作業が 行われ、環境保全活動の内容の拡 大が見られた。			
地域連携型プログラム 地域民泊家庭との連携： 民泊利用者に対し、地域 の動植物に関する解説・ 体験学習を実施する。 指導者育成講座： 沖縄の動植物、環境、海 洋文化等、多分野の最 新知見に関する講座を 開催し、県内事業者のス キルアップを支援する。 ビーチクリーン活動： 地域の方々と共に地域 海岸等でゴミ拾いを実 施。人工物が海洋生物 にもたらす影響やマイク ロプラスチック等の問題 について職員が解説を 行う。		・4-3月：久志地域の民泊事業者と 連携し、県外の中学校および大学 等27校353名に対し、ウミガメをは じめとする地域の動植物に関する解 説を実施した。 ・8月13,16日：久志地域で受入れを 行っている村おこしボランティア (ECOFF)の学生8名に対し、ウミガ メ飼育体験を実施した。 ・指導者育成講座として、本部町教 育委員会「本部町教育魅力化スタッ プ」を対象に海洋博公園内にも生息 するヤシガニの生態や生息状況、 魅力についての講座を開催した。 ・4月29日：嘉陽区と共同で嘉陽海 岸のビーチクリーンを実施した。 ・10月14日：嘉陽区と共同で嘉陽海 岸のビーチクリーンを実施した。			

公園関連事業					
1) 沖縄の太陽、花、海、文化を感じ、体験できる公園づくり					
①熱帯・亜熱帯性植物を活用した展示および健全な育成に関する調査					
1 熱帯・亜熱帯植物の収集および栽培に関する調査研究 海洋博公園の利用促進や、魅力向上を図るため、公園内施設での展示充実や普及啓発、系統保存を目的として、熱帯性植物の収集、ならびに生育特性や肥培管理方法等についての調査を行う。 栽培試験および管理、設備維持・管理は熱帯植物試験圃場(公園外の当財団独自の圃場)にて実施、対象はラン類、熱帯花木・果樹、観葉植物、園芸草花品種、特殊緑化植物、沖縄産希少植物等となる。 これまでに沖縄に導入されていない観賞価値の高い熱帯性植物の原種、園芸品種等を収集・導入し展示に向けて栽培試験を行う。 調査成果は、国営公園管理業務受託者と連携して、海洋博公園内施設(熱帯ドリームセンターや熱帯亜熱帯都市緑化植物園等)で展示する。また、植栽植物の押し葉標本等を作成し展示に活用する。	○	・熱帯植物試験圃場(公園外の当財団独自の圃場)で育成管理されている、話題性の高いゾウコンニャクや、観賞価値の高いユーロフィラ・ボウリアウオンゴやハトラン、カランセ、カクチョウランの園芸品種など13種を熱帯ドリームセンターで展示した。今後開花が期待され話題の植物となるショクダイオオコンニャクは順調に生育し高さ3mになる巨大な葉を展開し、継続展示している。ハンググライダーのモデルになった財団保有株である珍奇植物ハネフクベが熱帯ドリームセンターで開花結実し話題(同センターでは昨年、国内で初めて結実に成功させ、今年度で2年連続)になった。 ・園内で発生する飼料残渣および植物性残渣から作製した有機堆肥について、花壇材料のパンジー、ペチュニアおよびペゴニアを供試作物として牛・豚の排せつ物を原料とする市販堆肥との肥効比較試験を実施中。パンジーおよびペチュニアで市販堆肥を施用した場合よりも葉の枚数および葉緑素量が増加する傾向があり、実用化を図っていく。園内で栽培展示を実施した際に生ゴミの堆肥化および栽培での活用に興味を持つ公園利用者がみられた。 ・7月22日～10月1日に熱帯ドリームセンターで開催された「草木は友だち～牧野富太郎展」にて、沖縄県に牧野博士が命名した植物を10種(熱帯植物試験圃場で育成管理されているイソノギクやキバナノヒメユリ等の開花個体)を、やんばるギャラリーで展示紹介した。また、公園内で栽培される牧野博士命名の植物を押し葉標本とし、植物観察会での植物標本の作り方の講義実演に活用した。 ・1月26日～28日に熱帯ドリームセンターにおいて、「ツバキ展」を開催(沖縄椿協会との共催)した。48種(品種含む、合計98鉢)の展示に加え、華道広山流沖縄支部の協力により、ツバキを題材とした生け花の展示を行った。また、ツバキの分布や品種、沖縄文化との関わりなどの解説パネル(解説文は日英併記)をはじめ、ツバキ油製品や世界のツバキ切手など幅広い展示を行った。期間中はツバキの苗木販売や、苗木無料配布(50鉢/日)等で普及を図った。キッチンカー&軽トラ市も同時開催し、利用者サービスの向上に努めた。	・ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

2 公園の植物管理技術に関する調査研究 海洋博公園利用者の安全確保を図るために、公園内の樹木管理を国営公園管理業務受託者と連携して行う。また、植栽木の健全な育成および修景向上や快適性向上を図ることを目的に病虫害、腐朽、および有毒植物に関する調査を行う。病虫害の特定や薬剤防除試験を実施する。また、樹木医資格取得者が海洋博公園内の植栽木を対象としたガンマー線による非破壊の腐朽診断調査を行い、外観診断では判別できない樹木内部の腐朽状況を把握する。さらに、オキナワキョウチクトウの果実や茎葉の毒性を調査し、毒性の強い木と弱い木の判断基準を検討する。	○	・国頭村等で発生しているソデツのカイガラムシ被害について、被害状況の把握と試行的な薬剤防除を行い、その成果の一部を9月の亜熱帯緑化事例発表会(①-5「緑化等に関する講習会」に関連)で発表し普及を図り、それらの経験・知見を活かし海洋博公園では日々の園内巡視を強化徹底している。また、首里城公園と連携して被害本数の把握やその後の対応について協議した。 ・ギンネムに対して効果が確認できた散布用薬剤の適用拡大を10月に行った。今後は必要に応じ、海洋博公園での効果的かつ環境に配慮した仕様等を検討する。 ・アカギを加害するヨコバイに対して効果が確認できた散布用薬剤の適用拡大を7月に行った。また、海洋博公園地区等での調査研究の成果として、令和5年12月樹木医学会にて、アカギの害虫に関する生態と温度毎の生存日数等についてシンポジウムおよびポスター発表にて発表を行った。 ・海洋博公園内において腐朽の可能性のある樹木(2本)を対象に腐朽診断を行い、診断結果から腐朽が無いことを確認した。また、首里城公園内において腐朽の可能性のある樹木(2本)を対象に腐朽診断を行い、診断結果から腐朽が見られた木について、首里城担当者と協議した。今後の海洋博公園での診断・管理の参考にしていく。 ・公園内の南根腐病の発生実態と感染経路の推定を行った。また、国営公園管理業務受託者と連携して、被害発生場所の現地確認を行い、対応について協議した。 ・海洋博公園地区等での調査研究の成果として、令和6年3月の日本森林学会にて、フクギの枝および葉に穿孔するキクイムシの繁殖生態についてポスター発表を行った。 ・オキナワキョウチクトウの毒性について、果実・葉・花をサンプリングを行い、各個体の毒性を予測できないか解析を行った。結果がまとまり次第、論文投稿される予定。											
--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3 蜜源植物に関する調査研究および普及啓発 沖縄の蜜源植物に関する知見は不足しており、海洋博公園内へ植栽等が十分に行われていない。公園内の沖縄らしい景観形成や魅力向上および、蜜源植物の普及開発を図ることを目的に、ゾーニングの見直し、ならびにミツバチや蜜源植物を活用したプログラム等を構築する。公園内に導入したミツバチを活用し、自然環境とミツバチの関係を普及啓発する環境教育プログラムの計画を立案する。また今後導入する蜜源植物の選定やゾーニングなどを検討する。	○	・海洋博公園内に分蜂してきた1群を採集し飼育を行った。巣箱に定着し、安定化するまでは成功したが、8月の夏越しで全滅した。採集、安定化まではできたので夏越しでの給仕方法を工夫していきたい。これまで公園内で発見される分蜂群は駆除しか手段がなかったが、今後は採集も可能となる。また、ミツバチ群の冬越しは群の数を減らすことなく成功した。3月後半には飼育箱を1段から2段に追加する作業も実施した。ミツバチ群の維持管理に関しては飼育技術の向上とともに問題は少なくなってきた。今後、2群追加して6群とし収穫量を増加させたい。また今後は、安全に飼養を行うために巣箱の老朽化や継箱不足など、基本的な資材の整備を進める予定である。 ・養蜂技術の成果として採蜜したハチミツを活用し販売実証試験を行った結果、販売したハチミツは完売となった。お客様からの声も好評であったため、公園の特産品として定着できるように継続していきたい。 ・環境教育プログラムツールを検討し「蜜蠟」を使用した蜜蠟ラップを採用することになった。環境教育プログラムの推進を図るため、次年度は訪花観察ができる蜜源植物の植栽整備を植物園と共同で検討していく。また、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園（ハーブ見本区）において、蜜源植物としてアニスヒソップリコリスブルーやペンタス、蜜源ラベンダー各種を植栽した。											
4 緑化関係事業への協力 海洋博公園の利用促進、魅力向上を図ることを目的に、地域や外部関係団体と互いに連携し、公園の行催事への協力体制を構築する。外部団体主催の緑化催事やラン展等の協賛協力および広告掲載等を実施し、緑化に関する知識の普及や地域貢献、ならびに海洋博公園のPRを行う。	○	・「第45回全沖縄らん展示会」への後援・審査員派遣、「第33回(2023年)全国花のまちづくりコンクール」及び「秋のらん展示会」への協賛、「令和5年度沖縄都市緑化月間」への共催を行い、公園の行催事及び管理技術向上への協力体制を築いた。また、「全日本蘭協会の会報誌ORCHIDS」への広告掲載を行い、水族館等のPRを図った。 ・熱帯植物試験圃場（公園外の当財団独自の圃場）で育成管理した苗を活用し、イヌマキ育樹祭に50鉢、沖縄都市緑化月間における「都市公園愛護活動」に130鉢、那覇市が主催した都市緑化際に500鉢、国頭村で開催されたイヌマキ祭に80鉢、東海岸フラワーフェスティバルに300鉢を配布苗とし提供し県民への緑化普及を図った。											

5 緑化等に関する講習会 熱帯・亜熱帯都市緑化植物園等の利用促進や都市緑化の普及啓発を目的に、沖縄における最新の緑化事例や緑化技術等の発表の場を設ける。 「亜熱帯緑化事例発表会」を開催し、発表された事例をWEB配信し効果的に普及啓発を図る。	○	・9月15日に水族館イベントホールにて「亜熱帯緑化事例発表会」を開催し、緑化事例に関する発表6件、緑化技術に関する発表を1件行った。例年参加の多い県内行政、コンサルをはじめ、一般の方等の参加もあった。地域の緑化事例だけでなく、サクラやツバキに注目した緑化、公園行政の変遷、最新の害虫防除方法の研究など、幅広いテーマを扱った事から、職業や専門分野など様々な方が参加された。後日、発表会の様子をYoutube配信し555回の聴講があった。 ・11月18日に熱帯ドリームセンターにて「ランに関する講演会」を開催し、「ランを活用した空間展示」、「琉球列島のランの保全と新品種開発」について講演を行った。県内参加者だけでなく沖縄国際洋蘭博覧会の国外審査員からの質問、講師からの情報提供など、活発な意見交換を行うことができた。参加者から「very interesting lectures(非常に興味深い内容だった)」「着生ランに興味があり培養に関して勉強になりました」等、好評であった。			
6 国際ラン展等への参加および熱帯果樹・花卉類等の調査 熱帯ドリームセンターの展示や国営公園管理業務受託者と連携した催事運営に活かすことを目的に、国際ラン展への参加および熱帯植物の調査等を行う。 東南アジアにおいて開催される国際ラン展・園芸博覧会等への出展協力や審査委員の派遣を行い、情報交換を図る。	○	・8月16～20日に実施された第14回アジア太平洋蘭会議(シンガポール)でランを用いたディスプレイ作品を出展した結果、3位入賞とシルバーメダルを獲得した。高い展示手法が国際的に認められたと共に、沖縄国際洋蘭博覧会を主とした海洋博公園のPR、情報交換を行うことができた。 ・2月24日～3月10日に開催された第23回世界蘭会議(台湾)でランを用いたディスプレイ作品を出展した結果、ディスプレイ小部門で1位を獲得した。沖縄で生産されたランなど多種多品種のランを用いたことと、「やんばるのゆくい処」というテーマを表現できている点が評価された。会場では海洋博公園のPRや沖縄国際洋蘭博覧会に向けた展示手法などの情報交換を行うことができた。			
②新しい園芸植物の開発および展示に関する調査					
1 新しい園芸植物の開発および展示に関する調査 海洋博公園の利用促進、魅力向上を図ると共に、花卉産業振興への寄与を目的に、花卉類や観葉植物等の有用種の導入、独自性の高い品種の開発、ならびに増殖技術の開発と展示に取り組む。 品種の開発に取り組むとともに、国営公園管理業務受託者と連携して、新品種を熱帯ドリームセンターで展示する。	○	・沖縄の野生ランであるダイサギソウを用いた交配種を作出し、育成・開花に至った。本交配種は観賞価値や独自性が高く、来年度の熱帯ドリームセンターにおける展示を目標に、肥培管理を行った。 ・海洋博公園美ら海花まつりに合わせ「ちゅらら」(リュウキュウベンケイを用いたオリジナルの園芸植物)をハイサイプラザ前などに展示した。今年度は切花だけでなく鉢物も使用し、既存品種には無い背丈の高い形質を生かし効果的な展示を行った。	・ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

③琉球の希少植物の保護保全および展示に関する調査					
1 琉球列島産希少植物の保護保全および増殖技術に関する調査研究 公園内の希少植物を保全し、海洋博公園内施設(熱帯ドリームセンターや熱帯亜熱帯都市緑化植物園等)での植栽展示および展示会、ならびに観察会等の普及啓発による利用促進や魅力向上を図ることを目的に、琉球列島の希少植物の生息域内保全(生育状況調査等)、生息域外保全(系統保存、増殖、野生復帰等)を行う。国営公園管理業務受託者と連携し、絶滅を回避するための実践的調査・研究、外来種の生息状況把握に取り組むとともに、普及啓発を図る。	○	・熱帯ドリームセンターで11月18～26日に行われた沖縄国際洋ラン博覧会における特別展「沖縄に生きる野生ラン」にて、沖縄の野生ランに関する新発見・生態・絶滅に瀕する理由・保全の試みに関する最新の知見を、パネル、液浸標本、培養資料、育成した野生ラン(コウシュンシユスラン、キバナシユスラン等)で展示紹介した。来館者からは「普段見ることができないランを見ることができ感動した」「採集してはいけないことを知らなかった」等の声が寄せられ、教育普及の観点から反響が得られた。同展示では、当財団と神戸大学との共同研究で9月に論文発表した日本新産のイリオモテカヤランの紹介も行った。尚、同種については株を新たに導入し、種子繁殖を通じた生育域外保全のため系統維持を行っている。 ・新規絶滅危惧植物(ホザキザクラ等)の生息域外保全技術の構築に向けた栽培試験を実施した。	・ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

2 植物標本等の管理および有効活用 海洋博公園内施設の展示充実や利用促進、魅力向上を図ることを目的に、標本、世界の珍しい種子、植物素材の繊維、染料、民具等の適切な管理・保存・収集を行うとともに、標本等の整理および展示、共同研究での活用等を行う。 自然誌資料の充実を図るため、新規植物標本の採集・収蔵・交換を積極的に展開し、その成果を熱帯ドリームセンター等で展示するほか、普及啓発活動を行う。また、研究促進と危険分散を兼ね収集標本の重複品を共同研究者へ配布する。	○	・7月29日～8月27日に熱帯ドリームセンターで開催された「熱帯の不思議な種子展」において、総合研究所標本庫(公園外の当財団独自の標本庫)で管理・保存しているフタゴヤシやライオンゴロン等の世界の珍しい種子標本70種、3Dプリンターで制作された種子の大型模型3点を展示した。 ・7月22日～10月1日に熱帯ドリームセンターで開催された「草木は友だち～牧野富太郎展」において、総合研究所標本庫(公園外の当財団独自の標本庫)で管理・保存している牧野富太郎博士にゆかりのある沖縄の植物(自生の生態写真、押し葉標本7点、液浸標本4点)、並びに当財団が所属している日本植物園協会と連携し牧野博士の肖像写真、植物図(複製)等を展示した。特に総合研究所標本庫で所蔵している牧野博士が1896年に台湾で作成した標本(実物)や、関係研究機関と連携し借用した石版印刷されたセイシカの植物画の特別展示は目玉となった。 ・11月18～26日に熱帯ドリームセンターで開催された沖縄国際洋蘭博覧会の企画展示「沖縄に生きた野生ラン」で、野生ランの液浸標本2点を展示した。 ・沖縄県内各地で新規に押し葉標本の採集を行って整理、OCFへの登録(総合研究所標本庫)を行い、重複標本の交換を行った。新規に整理し貼り付けた標本は合計で2,558点の貼付け済の押し葉標本を登録した。これと平行し、野生植物や、圃場で栽培された植物の種子を標本として調製し登録した。また、登録標本のうち、25点が今年度発表の論文に引用された。所蔵標本については、虫害防止などIPM管理には気を配っている。今後も関連企画展等、公園での展示、観察会等の普及啓発に活用していく。			
---	---	---	--	--	--

④沖縄の在来作物に関する調査及び普及啓発						
1 沖縄の島野菜および伝統作物に関する調査研究 海洋博公園内施設での栽培展示、収穫体験等に活用し、公園の利用促進、魅力向上を図ることを目的に、沖縄の島野菜および伝統作物等の系統保存、収集・導入・試験栽培・機能性の調査を行う。 県内離島を含めた島野菜の遺伝資源探索を行う。また、これまでに収集された品目について栽培試験および教育普及活動等を実施する。	○	海洋博公園内での栽培展示、収穫体験等での活用を目的として、各品目について下記のとおり実施した。 ・メーオーバの遺伝資源探索の結果、渡嘉敷村渡嘉敷および名護市屋部にて栽培株が確認され、それぞれ県内農林高校由来の種苗であった。熱帯・亜熱帯都市緑化植物園におけるメーオーバ植付体験について10月の土作り、播種から12月の収穫まで行い、在来茎レタスの認知度向上を図った。また、収穫体験ではTV取材があり収穫時の様子が放映された。 ・在来ゴーヤー2系統(本部町健堅、豊見城市饒波)は種子の更新を行った。また酷暑期(7月～9月)の栽培にも適した系統であることが確認できた。 ・在来カボチャの収集を行い、果実に関し形・色に多様性がみられたため、遺伝的にかなり雑駁であることが示唆された。宮古島市城辺からは在来コリアンダー、在来落花生等近年収集できていない在来野菜の品目が収集できたので、おきなわ郷土村等の公園内での展示に活用する材料が収集できた。島ダイコンの栽培地である那覇市鏡水、中城村和宇慶・北浜および名護市屋部において、病気が入りやすいことと、生産性の低さから栽培者が激減している実態が明らかになった。 ・シカクメ在来系統は、経済栽培系統の「うりずん」より晩生であることが判明したが、沖縄本島の真冬期である12月以降には、枯れる個体が現れたため、栽培適期は9～11月の3か月間であることが示唆された。 ・「もとぶ香ネギ」は、酷暑期である7月～8月に異なる色のネットを用いた被覆栽培を行い、青ネットでの被覆によって生育が良好になることを確認した。また、3年連続で上本部学園の栽培授業に使用した。特に、生徒にデータを取得してもらったが、日射量が少ない場所では、ネギの分けつ数が増える傾向がみられることが明らかになった。 ・酷暑期の栽培が可能な沖縄伝統野菜(シカクメ、ゴーヤー、ヨウサイ)の在来系統の抗酸化活性等の機能性を評価するため、対象品目を栽培し、可食部を中心に測定サンプルの調製を行った。 ・宮古島チョマ(繊維の原料となる植物)について、優良系統である、赤系統(松原)および青系統(豊島)の堆肥の種類に関する栽培試験を実施した。冬季においては、堆肥の種類に拘わらず、赤系統の生育が遅くなることが観察された。今後は他の赤系統でも同様の現象がみられるかどうかを調査する。また、宮古芋麻績み保存会との今後の連携に関連し、講演会を2月に宮古島市歴史文化資料館にて行った。約50名の聴講者に対して芋麻に関するこれまでの調査の報告を行い、宮古上布原材料の生産振興の意識向上を図った。さらに、栽培環境調査など宮古島市教育委員会との次年度の連携に向けた調整を開始した。	・ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。	

⑤ 沖縄等の海洋文化に関する調査・普及啓発					
海洋文化館の資料に関する調査研究 1 海洋文化館の展示資料の劣化防止を目的に、海洋文化資料(オセアニア・沖縄等)の管理保存に関する調査を行う。R5年度は、海洋文化館の環境調査ならびに展示・収蔵品の保存状態調査を実施する。また、その成果を関係部署間で共有し、資料の適切な管理保存に活用する。	○	・館内・収蔵庫内の温湿度データを集積・分析して、8月29日～9月5日には夜間通風を停止して高温多湿の外気の侵入を防止する実験を行ったほか、9月12日～19日にも夜間に冷風導入実験を行って、展示資料の適切な保存のための環境改善方法の策定に着手した。 ・期間中は随時、資料の状態を調査し、資料リストを更新した。また、7月11日に一部の展示資料に発生したカビについて調査し、専用の展示ケースを製作して展示環境を改善すべく、国との協議を開始した。12月6・7日には海洋文化館の全館燻蒸作業を行った。 ・水族館の生物レプリカや植物課所管の染織資料など、海洋文化館に持ち込まれていた管理外物品を整理して、館内・庫内の環境を改善した。	・ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2 公園内施設の利用促進を図ることを目的に、海洋文化館の所蔵資料に関する調査を実施し、調査成果をもとに講座や体験プログラム等を実施する。R5年度は、沖縄・太平洋地域の伝統航海術に関する専門講座「船と航海術」、沖縄と太平洋地域の海にまつわる暮らしに関する専門的講座(海洋文化講座)を実施する。	○	・8月13日に企画運営課、動物研究室と合同で専門講習「人と自然 -クジラ・イルカと人のくらし-」を実施した。 ・海洋文化館を会場として、一般向け「海洋文化講座」を4回実施した。 ・これらの総参加者数は172名(対定員比57.3%)であった。 ・毎回、チラシの配布ならびに財団及び公園HPや新聞への掲載を通して告知した。 ・また、沖縄県教育委員会運営の生涯学習情報発信システム「まなびネットおきなわ」でも告知した。 ・各回の終了後はアンケート結果を分析し、改善を期した。			